

目次

BIRTH 1

SCRAP 103

〈特別対談〉西堂行人×シライケイタ 235

あしがき 262

上演記録 267

B
I
R
T
H

登場人物

ダイゴ

マモル

ユウジ

オザワ

遠くに小学校のチャイムの音が聞こえている。
下校していく子供たちの声。

警察署。取調室。

オザワ

俺、チャイムの音って好きなんですよ。こう、反射的に、子供の頃に戻るっていうかね。なんとも言えない気持ちになるでしょ。なんにも考えなくて、ただ走り回って遊んでた時のこと、思い出すんですかね、体が勝手に。あ、そうでしたね、どこまで話したんでしたっけ。あ、そうか、えっと……刑事さん、誰かを本気で憎んだことってあります？ ええ、本気で。それってね、どれくらい憎んでました？ ええ、どれくらい。あ、長さです。時間。どれくらいの期間ってこと。そうですね、忘れますよね。そうなんですよ。これね、はっきり言えますけどね、怒りとか憎しみってね、そんなに長く続かないんですよ。最初は、自分の体がどうにかなっちゃうんじゃないかっていうくらいに怒りが湧いて、それこそ、殺してやりたいなんて思ってもね、どこかで、なんて言うか……もういいかっていうか……もう限界だって、思うんですよ。忘れた方が楽だから、できることなら忘れたいうてね。でもね、忘れちゃいけない怒りってあるでしょ。絶対に、忘れちゃいけない憎し

みつてあるでしょ。それがね、苦しいんです。もう、体全部で、忘れたがつてるのに、忘れさせない努力っていうんですかね。執念を抱き続ける執念、とでもいうんですかね。もうくつつきかけてる切り傷にね、こう、自分でカッターの刃ねじ込んで、また開いてね、痛みを思い出すっていうかね、たとえれば、そんな感じですかね。俺にとつてはね、刑事さん、それがあいつらを探し続けることだったんです。それがあいつらのね……そばに居続けることだったんです。

ガード下。

真上を電車の走る音がする。

壁にもたれて座り込んでいるオザワ。

ユウジがやってきて、オザワと対面する。

見つめあう二人。

オザワ

……見ない顔だな。

ユウジ

初めてだからな。

オザワ

どこで知った、俺のことを。

ユウジ

別荘で。お前、有名人だったぜ。お前の揃える道具は、どれも一級品だって。

オザワ …… 刑務所にいたのか。何をやって引つ張られた？

ユウジ お前には関係ねえ。

オザワ ああ…… そうだな。何が欲しい。

ユウジ 一式全部だ。

オザワ 一式？ 経験は？

ユウジ あんなもん、だいたいわかる。

オザワ 見よう見真似でやるうってのか？

ユウジ うるせえよ。

オザワ そんなに甘くないぞ。

ユウジ うるせえって。

オザワ …… 規模は？

ユウジ あ？

オザワ 店の規模だ。何人でやるつもりなんだ。

ユウジ まだ俺一人だ。他はこれから探す。

オザワ あてはあるのか？

ユウジ 俺がシャバに出てくるのを待ってる仲間がいる。

オザワ 最低でも三人、いや四人は必要だぞ。

マモル ……そつか。

ダイゴ ああ……いらねえわ。

マモル ……ああ、じゃあ、もう言わねえわ。

マモルはすねて、ダイゴに背を向けて寝る。

ダイゴ ……気が向いたらな、

マモル ん？

ダイゴ 頼むかもしれねえわ。

マモル ……待ってるわ。

ダイゴ 寝るわ。

マモル おやすみ。

ダイゴ、蛍光灯の紐を引っ張り、常夜灯にする。

長い沈黙。

突如起き上がり、ダイゴにのしかかるマモル。

S
C
R
A
P

登場人物

ヒノマル

ブル

パイコ

オヤジ

オクサン

トンチ

グルメ

ハカセ

カカシ

トオル

イッブニ

ハル

一九七〇年代半ば。夏。昼下がり。大阪市城東区鳴野西二丁目。

大阪環状線の京橋駅と森ノ宮駅の間（現在は大阪城公園駅が新設されている）にある小さな集落。

ここはかつて、〈アバッチ部落〉と呼ばれた場所……。

古びた一軒のバラック小屋の中に一人の男が入ってくる。ゆつくりと、懐かしむように、部屋の中を見回している。男がしばらくその場に佇んでいると、表で原付バイクの止まる音がする。「なんや、開けっ放しやないか」という声と共に、別の男が入ってくる。

別の男　うお、びつくりしたあ。

あ……。

別の男　誰や。

いや……。

別の男　人んち、なに勝手に入っとんねん。

すまん。鍵開いてたもんで。

別の男　開いてたもんでちゃうやろ。なに勝手に入っとんねん。何しとってん、ここで。

いや……。

男

別の男
……ん？

男
……ん？

別の男
お前……。

男
お前！

別の男
ヒノマルか？

ヒノマル
ブル？　ブルか？

ブル
おー！　ヒノマルや、やっぱりヒノマルや！

ヒノマル
おー！　ブル！　久しぶりだ！

抱きあう二人。

ブル
お前、はよ名前言えや。シバキ倒すところやったぞ。

ヒノマル
いや、だって、まさかお前がいると思わんぞ。

ブル
何年振りや？

ヒノマル
んー……十……五年か。

ブル
そんなになるか？

ヒノマル
ああ、そうだ。俺がここを離れたのが六〇年だ。

ブル
そうかあ。十五年かあ。いやあ懐かしいなあ。

再び抱きあう二人。

ヒノマル
なんだか無性に大阪が恋しくなつてな、気付いたら新幹線に乗ってた。

ブル
(笑) そうかそうか。東京におるんか？

ヒノマル
ああ。あれからずつと東京だ。

ブル
しゃあけどお前、変わらんなあ。

ヒノマル
そうか？ もう四十五だぞ。お前は？

ブル
同じ年やろうが。忘れたんか？

ヒノマル
いやいやほら、数えだろ朝鮮は。俺は満で四十五だ。

ブル
その話も散々したやろ昔。で、結局同じ年ちゆうことで落ち着いたやんけ。

ヒノマル
(笑) あー、そうだったか。

ブル
結婚は？

ヒノマル
してる。子供も二人。

ブル
ほう、男か女か。

ヒノマル
両方女だ。中二と小六。

オヤジ 宿賃は、一日二百円。三食付き。

ヒノマル はい。

オヤジ 毎日の分け前の中から、二百円引いて渡すから、いちいち支払いのこと考えんでええ。

ヒノマル はい。

オヤジ マッコリは一杯十円。こん中に(器)十円入れれば、好きに飲んでええ。

ヒノマル はい。

オヤジ マッコリとキムチはカミさんの手作り。

ヒノマル はい。

オクサン メツチャ美味しいで！

オヤジ 二階は、俺ら家族の居住スペースに付き、立ち入り禁止。

ヒノマル はい。

オヤジ ヒロポンは禁止。

ヒノマル はい。

オヤジ まあ、この下宿のルール言うたらこんなもんや。

ヒノマル はい。

オクサン アパッチ部落には何人か親分さんがおるけどな、うちが一番自由が利くで。うるさいこと

なんも言わんからな。

オヤジ よっしや、決まりや。兄ちゃんの名前はヒノマルや。

玄関の開く音がして「アンニヨンハセヨ」と声。

オヤジ お、ハルさんや。

ハル、入ってくる。両手の袋の中に大量の煙草とチヨコレート、ガムなどが入っている。

ハル 안녕하세요, 어머니 들 계시네.

(アンニヨンハセヨ、オモ タデウル

ゲシネ)

オヤジ 儲かってまっか?

ハル 보치보치でんな。

ブル 하루씨, 밧토 한곽 쥐요.

(ハルシ、バット ハングアク ジョヨ)

ハル はいよ。三十円な。(煙草を手渡す)

ハカセ 저도.

(こんにちは、あらお揃いで)〔日本語訳〕

(ハルさん、バット一箱くれ)

(俺も)

〈特別対談〉 西堂行人×シライケイタ

シライケイタ 演劇人生 を語る

(二〇一八年十二月二十一日 明治学院大学横浜校舎にて)

西堂行人(以下、西堂) 劇作家・演出家並びに俳優のシライケイタさんです。

シライケイタ(以下、シライ) こんにちは。(拍手)

西堂 シライさんは今、演劇界でもっとも注目されている旬な劇作家です。桐朋学園芸術短期大学で二年間学ばれた後、専攻科に進んで合計四年間桐朋で学びました。

シライ 中退してゐるんで……三年間学びました。

西堂 一九九八年に蜷川幸雄にがわゆきおさんの『ロミオとジュリエット』で俳優デビューし、その後ずっと俳優を続けてきて、二〇一一年に初めて劇作家になりました。そのあたりのことをおうかがいしたいと思います。ここにいる学生たちは芸術学科の学生で、その中で演劇を志望する人もいれば、音楽や美術、映像を志望する人もいますので、演劇だけに特化せず幅広く芸術と人生について語ってもらえればと思います。それから学生はだいたい十九歳か二十歳くらいです。

シライ 一、二年生？

西堂 その年齢の頃、シライさんがどんなことをやってきたのかも聞かせてもらえればと思います。若い

上演記録

◇上演記録「BIRTH」

温泉ドラゴン第二回公演

2011年2月22日～27日 SPAC E 雑遊

【キャスト】

ダイゴ 阿川竜一

マモル にわつとむ

ユウジ 井上幸太郎

オザワ 阪本篤

【スタッフ】

演出…シライケイタ（以下全公演）

照明…野中千絵

音響…益川幸子

美術…安藤秀敏

舞台監督…杣谷昌洋

舞台監督補…本郷剛史

音楽…大平友和

演出助手…堀ノ内啓太

声の出演…桜井昭子

制作…宣伝美術…詩森ろば

シライケイタ

劇団温泉ドラゴン代表。桐朋学園芸術短期大学演劇専攻在学中、蜷川幸雄演出の『ロミオとジュリエット』パリス役で俳優デビュー。2011年より劇作と演出を開始。社会的なテーマを扱うオリジナル作品から、映画や小説の舞台化など幅広い創作活動を展開している。「生と死」や「個と集団」など、人間存在の本質を追求する骨太な作品作りが特徴。

2015年には韓国ツアーを成功させるなど、活動は国内にとどまらない。

日本演出者協会若手演出家コンクール2013『山の声』において、優秀賞と観客賞受賞。2015年温泉ドラゴン韓国ツアー『BIRTH』が密陽（ミリャン）演劇祭において戯曲賞受賞。2018年『実録・連合赤軍 あさま山荘への道程』（若松プロダクション）、『袴垂れはどこだ』（劇団俳小）の演出において第25回読売演劇大賞「杉村春子賞」を受賞。

2018年度より、セゾン文化財団シニアフェロー。

日本演出者協会常務理事。日韓演劇交流センター理事。日本劇作家協会会員。

◆上演について

収録作品を上演する際には、シライケイタの許諾が必要です。

上演を決定する前に、劇団温泉ドラゴン（onsendragon@gmail.com）にお問い合わせ下さい。

また、無断の変更などが行われた場合は上演をお断りすることがあります。

●劇中曲一覧

「お母さん」 (pp. 89-90)

作詞：田中ナナ／作曲：中田喜直

JASRAC 出 1906070-901

「너영 나영 (ノヨン ナヨン)」 (pp. 202-204)

濟州島民謡／訳詞：李政美

BIRTH × SCRAP

2019年7月1日 初版第一刷印刷

2019年7月6日 初版第一刷発行

著 者——シライケイタ

発行者——森下紀夫

発行所——論創社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-23 北井ビル

tel. 03 (3264) 5254 fax. 03 (3264) 5232 web. <http://www.ronso.co.jp/>

振替口座 00160-1-155266

装丁——windage. 村井 夕

組版——フレックスアート

印刷・製本——中央精版印刷

ISBN978-4-8460-1845-0 ©2019 SHIRAI Keita, Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。